

# 清新中学校だより 清風

令和3年1月6日  
第179号

## 「はやぶさ2」から学んだこと

校長 江戸谷 智章

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。令和3年の幕が開けました。生徒たちにとってこの3学期は、これまでの成果や課題を検証し、いよいよ進級や進学、また新たな社会への確かな一步を踏み出すための準備と総まとめを行う時期となります。

これまでも生徒たちには、「学校生活に限らず、これまでの自分としっかり向き合い本気で何かに挑戦し人としての幅を広げてほしい」と様々な場面で話をしてきました。自分の殻を破ろうと何かに挑戦をしたとき、時に苦しみを伴うことがあります。けれど、たとえ納得のいく結果が出なくとも、自分自身で心に決め行動に移したという事実が、必ずや次のステップへの原動力につながるものと信じています。本年一年が生徒たちにとって有意義な年になることを願っているところで



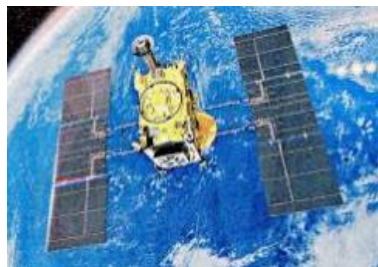
さて、皆さんの記憶にも新しいことと思いますが、先月の12月6日、6年50億キロの旅を経て、「はやぶさ2」が地球に戻ってきました。様々な報道にもあるように、「はやぶさ2」が採取した小惑星「リュウグウ」の砂の分析が進められていくことで、これまで未知とされていた太陽系の成り立ちや生命の起源などについての解明が期待されています。

今から10年ほど前に傷だらけで地球に帰還した「初代はやぶさ」が、エンジンにトラブルをかかえ、さらには燃料漏れや数ヶ月にも及び行方不明という絶対絶命のピンチに見舞われながらも地球に戻ってきたことは皆さんも承知のとおりです。私たちはこの偉業から、科学者たちの必ずや地球に戻してみせるという知恵と執念と決断力から、「あきらめずに努力することの大切さ」を学びました。

今回の「はやぶさ2」では、初代のはやぶさとは異なり、ほとんどトラブルもなく順調な飛行であったと言われていますが、それでも想定を超える危機がいくつもあったといえます。

その一つに、今回の目的地であった小惑星リュウグウは、前回のイトカワとは全く違う岩だらけの小惑星であったために、地表の砂を採取するにふさわしい着陸場所が定まらなかったといえます。実際、JAXA（ジャクサ）は、当初の計算では、甲子園球場程度の広さ（直径100メートル）の範囲に着陸することを想定していたそうですが、分析の結果、ピッチャーマウンド程度の広さ（直径1メートル）でしか着陸できる場所がないことを知ることとなります。

それでも「はやぶさ2」は上空20キロから7時間半をかけ無事に目的地に着陸すると、砂を採取するための弾丸を地表に打ち込み、史上初めて小惑星に人工クレーターを作ります。しかしその後、ジャクサは大きな選択を迫られます。地表の砂を確実に採取するためには、再着陸が必要となりました。そのときジャクサ内では研究者たちによって大議論が行われます。



すでに「はやぶさ2」には、一回目の着陸で、弾丸を地表に打ち込んだ際に巻き上がった砂がわずかながら採取されていました。十分な砂を採取するために再着陸を試みたところで、着陸に失敗し探査機自体を失えばこれまでの苦労はすべて水の泡になってしまいます。事実、1回目の着陸に4ヶ月もの時間と燃料を費やし、2回目の再着陸に成功する保証などあるわけではありません。

さて皆さんだったらどのような判断をくださるでしょうか。プロジェクトチームの研究者たちは、「初代はやぶさ」と時と同様、ほんのわずかな可能性であっても目をつぶることはありませんでした。限られた時間の中で考え得るあらゆる悪条件を想定し、探査機を失うことのない着陸方法について数百万回にも及ぶシミュレーションを繰り返したといえます。

足を前に踏み出そうとするのか、それとも退くのか、私たちが様々な場面でくださる決断というのは、自分がどういう生き方をしたいのか、また物事を何が何でも成し遂げたいとする熱意や志（こころざし）に大きく左右されるものと思います。結果を恐れる前に、「やるだけのことはやった」といえる経験の一つでも多く積み上げていけたらと自分自身を鼓舞している私です。

# 支え合いから高め合いへ

ときわぎ学級主任 野谷 洋子

私が、障がいを抱えた方々と関わりを持ち始めたのはいつからでしょうか？かつて、学生時代の友人に会った時に、支援学級の担任をしていることを話すと「らしいね。あつて



るよ。」とよく言われました。そういえば、中学生の頃、友だちとの登下校時に支援学級（当時は特殊学級）の生徒によく会いました。私たちが「おはよう」「バイバイ」と声をかけるうちに彼らからも話しかけてきて、いろいろな話をするようになりました。何の話をしたかはよくは覚えていませんが、まあ普通に「楽しかった」という記憶しかありません。彼らも私たち同様に、困っていたり、悩んだりしていました。

支援学級の生徒はいつも元気で一生懸命です。でも、彼らにはこの社会の中で1 + 1 = 2にならないことがたくさんあります。いや、なりにくいから生活がしづらいのです。どう折り合いをつけていけばよいのか、悩み苦しみます。その折り合いの付け方は、支援学級の生徒たちだけでなくどの生徒もみんな。私たち大人も。仮に1 + 1 = 3や1 + 1 = 0になっても、そこから新しいアイデアや発展を導き出せるかもしれません。そう考えると、そんな足し算の答があっても肩の力を少し抜いて「まあ、いいっか。」と思えたらもっと生活がしやすいように思います。支援教育は特別な人にではなく、みんなに優しい教育のように思います。お互いに助け合い、支え合うことによって生活が成り立っています。リーダーにはリーダーなりに悩みがあり、学習が苦手な生徒は苦手なりに悩み、得意な生徒は得意なりに悩んでいます。そして保護者の方々も。私たち教員も。相談したり、助けをもらうことは決して恥ずかしいことではなく、それぞれが、前へ進むステップ。一人ではできないことは、助けをもらい前へ進み、助けてあげられることは、手を出しすぎず、良く見極めて支援していく、そんなことがみんな自然にできたらと思っています。

ときわぎ学級の生徒は毎年、高齢者施設を訪れ、ソーラン節を元気に踊ったり、箏やハンドベルを演奏したり、合唱を披露する中で高齢者やそこで働く職員の方々の気持ちを和ませ、元気づけています。喜んでいただけたことによって、生徒たちは逆に喜びと自信を得て帰ってきます。支えたつもりが支えられてもいます。これは、ほんの一例ですが、清新中学校の日常生活の中で、支え支えられる光景がたくさん見られます。今年も、そんな清新中学校でありますように。そして、支え合いから高め合いへ繋がる年にしたいと思います。






## 1月の主な日程



※下記の日程につきましては、今後変更が予想されます。ご了承ください。

### 1月

- 1日（金）令和3年元旦 
- 6日（水）3学期始業式 諸活動なし
- 7日（木）諸活動なし
- 11日（月）成人の日
- 12日（火）心電図（該当者・1年生）
- 13日（水）PTA実行委員会 
- 14日（木）諸活動なし
- 18日（月）諸活動なし Jサプリ
- 19日（火）教育相談① 生徒会委員会

- 20日（水）教育相談② 
- 21日（木）諸活動なし
- 22日（金）教育相談③
- 23日（土）3年生試験前活動なし～25日
- 25日（月）諸活動なし 公立高校郵送出願日
- 26日（火）3年定期試験（5科）
- 27日（水）教育相談④ 生徒会中央議会
- 28日（木）諸活動なし
- 29日（金）新入生保護者説明会